

常新新聞

刊夕日五十月一十

定部一五銭
 一月五十五銭
 三月一五〇銭
 半年二八〇銭
 一年五〇〇銭
 廣告一行一〇銭
 一行五銭
 一行二銭
 印刷所本社専屬 陽賜

発行所 福島縣石城郡平町長橋町廿五番地
 電話 二七〇番
 印刷所 福島縣石城郡平町長橋町廿五番地
 電話 二七〇番

内小淋梅
 科病科毒
 科科科科
 (需應院入) 平町紺屋町
藤沼醫院
 電話 五〇七番

建築材料

一、警城セメント樽入 袋入
 一、板ガラ ス各 種
 一、壁用材料 各 種
 一、ペンキ塗 各 種
 御照會を乞ふ

セメント、板ガラ
 ラス安價になり
 ました、
 御照會を乞ふ

警城セメント株式会社代理店
西村屋薬舗
 平町二丁目 電話 三三番

モスリン 販賣開始

モスリン販賣御披露の爲め
来る十六日より三日間
 恵比壽講を期して大賣出し
 大原呉服店改め
大原モスリン店
 平町三丁目(電話一七〇番)

霜月詠草

柿沼一好

晝寝よりさめて明るき陽の
 光隙子をぬらせども親しみ
 かねつ
 陽だまりに命死にけるはい
 見ればものの命はさびじか
 りけり
 八ちまたに吹きかかもやまぬ
 ほこり吹きさつ夕づきにけ
 り
 夕まけてけふも熱づく吾が
 命しふねき風邪にはそりけ
 るかも

鳥肉

今度東京に於ても
 有名な鳥料理人を
 招きましたから一度
 御試食を願ひます

美味で評判の
遠藤パン
 (平驛前)
 平町田町
 電話 四二二番

農本位を工商に

農村唯一の生産物は米であ
 るが今日交通機關の整備と
 生活様式の改善主食物の研
 究等は一方に於て米をそれ自
 體をしてその價値を低下せ
 じめてゐる傾向は顯著なる
 事實であることは何人とも
 も首肯する處であらう、然
 るに之を生産するには益々
 其勞費を増大し經濟價値の
 より以上高價を欲すること
 は二大逆流が時代相に現は
 れて居るの事實があること
 に農村疲弊の根本が横たは

牙科平町森會牙科医院

味付落花糖
 金米糖
 寶來豆糖
 有平糖
 尼平糖
 平豆糖
 全部色豆糖
 斤賣糖各種

東京海上火災保險株式會社平代理店
 富國徵兵保險相互會社平事務取扱所
 店主 久野 柳 助
久野製果販賣部
 福島縣平町一丁目
 電話 一五〇番
 工場 平町長橋町六十一番地

日本一の安賣王來る

最新流行都友禪メリンス
 ▲新柄模様五百色以上あり安くとも
 ▲新モス更さに非ず色落ちる心配なし
 ▲金儲けでなく金まごめ主義
 今日より後四日間日延なし
 平三丁目郵便局前 山本屋旅館にて
 東京 高橋 商會 販賣部出張

火災期節となりました

保險を附するに今が最好期
 電話三十二番を御利用下されば
 早速係員が参上します

資本金壹千五百萬圓
 諸積立金八百餘萬圓
 平代理店
加藤營業所
 白銀町(電話三二二番)

つてゐるものである、農業
 は未開の廣汎地域に機械を
 使用し大農式に實施するに
 依つてその生命がある、狭
 少の地域に小農式の耕作法
 は生産量の増加率よりも生
 産の勞費を要して次第に其
 の力が衰退し行くのは自然
 である、此の自然的趨勢
 をして維持する唯一の方法
 は只移民に依つて調和せし
 むるのみ、今日我が國の農
 村農業はこの自然的趨勢に
 依つて逼迫を來して居るも
 ので、之れが根本的の打開
 策は從來の農業様式を改善
 し工業商業の轉換にあらね
 ばならない。我が國は比較
 的多くの山脈に耕地少く従

丸登株式会社

平町田町 電話 三三三番
 川添房二郎

株式買中値

電話に金融

銘格 拂込 時價	
警城銀行	五〇〇
平銀行	五〇〇
警越銀行	一〇〇
警城實業	五〇〇
警城實新	三〇〇
田村實銀	一七五
四倉銀行	一七五
農工銀行	二〇〇
同 新	一五〇
百七銀行	五〇〇
同 新	一〇〇
七七銀行	一〇〇
郡山電氣	五〇〇
同 新	二五〇
只見川電	一〇〇
植田水電	一〇〇
好問水電	一〇〇
警城製菓	一〇〇
警城製菓	一〇〇
平信託	一〇〇
警城製菓	一〇〇
植田物産	一〇〇
平製氷	一〇〇
好問軌道	一〇〇
入山新	一〇〇
小田炭礦	一〇〇
警城炭礦	一〇〇
同 新	一〇〇
警城セメン	一〇〇
同 新	一〇〇
平運送	一〇〇



わが愛する平町は 約三千坪の大地主

時價に見積つて四十萬圓 人に知られぬ事實

平町名義の現在所有宅地は、役場新築の唯一の財源として當込んで居る商業學校敷地の千坪と現在の役場敷地三百六十三坪をそれに舊私立平陽女

學校側 約二百坪

市内目ぬきの場所に千五百坪近くを所有して居るに、加へ少しく場末ではあるが、鎌田遊廓の千五百坪を保持して居るから八幡小路の舊警中グラウンドなどを除き正直

正銘の 宅地ばかり

で約三千坪の大地主と云ふわけでもこれを内輪に商業と役場が坪百五十圓、平陽あどが二百圓、鎌田が大きい百圓と評價しても合計時價が三十八萬六千五百圓と云ふ

勘定で 之れが右か

ら左へ現金になる時は役場を新築しやうが水道を延長しやが起債だの縣補助だのと騒ぎまはることは無い程の福々町である、とは餘りに知られて居ない事實であらう因に平陽跡は十四年度の

収入に 見込まれて

あり鎌田の方は十七年の貸附期間迄坪年額一圓五十六錢宛を徴して居ることである

常磐片々

勤儉週間の終る頃に委員を囑託、コンナ事なら寧ろ囑託状を節約しろ

河野翁の銅像建設、空飛ぶ鳥共また足場が殖むると喜ぶ

泥酔男が巡查に噛み付く、酒の肴と間違つたらしい

平町は三千坪の大地主、附近の村落婿入りしては如何

四倉信用附議 石城郡四倉町信用組合にては十七日同事務所樓上にて役員

坑内にて異様な怪音を聞いたのでスワ落警すと逃ぐる暇もなく坑天井崩落し兩名共瀕死の重傷を負つたと

鹿島火防注意 石城郡鹿島村消防組では此程火

一人當りに産む金高 石城郡生産物總額

最も多額を占むる鑛産物

石城郡の昨年に於ける總べての生産物總額は三千八百二十四萬二千三百七十五圓であつて一戸平均千七百七十圓六十六錢に當つて居るが更らに一人前にすれば百九十八圓十一錢で此生産物中最も多額を占めて居るのは鑛産物、次ぎは農産物であつて畜産は最も少ないが是れを細別すると次の如くである

- △農産、七五〇、九一〇圓
- △工業、四六九、〇三三圓
- △商産、三六五、四一五圓
- △水産、二九〇、〇二五圓
- △鑛産、三、六六、七六五圓
- △林産、一、八九、二三七圓

法相平驛通過 横田司法大臣は仙台へ赴く爲め



庭家 十 欄 十

坑内に 異様な怪音 逃ぐる暇なく 後山二名重傷

石城郡内郷村大字高坂磐城炭礦坑夫秋田縣生れ後山夫辻屋さく(一)同上新潟縣生れ山田さみ(二)の兩名は十三日午後六時高坂坑第三斜

爲め壓倒され頭部を粉砕即死した

飲食店から 座布団一枚

平町字南白銀町下宿業金益屋止宿田村郡字山町生れ磐城炭礦平發電所雇大和田政治(三)は數日前同町字南町飲食店松の家事杉山金之助方に登樓座布団一枚を持ち去つた事發覺本日平署にて取調べられる

電話を新設 平町南町耳鼻咽喉専門大和田醫院にては電話百七十番を新設した

不平受付 投書歓迎

夜學生の騒ぎ 私田町の商業學校附近の者ですが毎夜同校夜學生が終業時九時頃の歸途に按摩や芝居の真似をして甚だ安眠を妨害して困ります (困り生)

武川校長の答 よく生徒達に對して注意し今後は左様な事のない様になります

聲をよくする法

聲を美しくするには、健康を保つことが第一です。何より身體の養生が大切で、呼吸の要素といふものは呼吸の程有志の間に起こり有志たちは資金調達に奔走してゐるその建設の場所はまた決定されてゐないが有志間では日比谷公園内の一部に建設せんと目下東京市に交渉中である、發起人は若槻内相、横田法相、頭山滿、岡田文相、外二十四名であるとして寄附等につき發起人代表者が十四日次田警視總監を警視廳に訪問懇談した

戸數割滞納

千餘名に及ぶ

平町では戸數割の付加税を初め國稅稅雜種稅等の賦課徴収は既に去る八月中に納期を過ぎその後數回の督促をしてゐるが納稅成績不良を極め現在滞納者は戸數割だけで納稅義務者四千三百五十人中滞納千五百七十七人のおほきに達してゐる然し地租割や國稅營業稅などはすが擔稅力がある滞納者は少いが戸數割の滞納は一人あたりの納稅二圓乃至三圓

電力發電

東京電燈株式會社では過般福島縣磐城炭礦附近に五萬キロの火力發電所二ヶ所建設認可を申請した

銅像を建設

日比谷公園に 憲政の神と讃はれた故河野廣中氏の銅像建設の議がこ

好間江筋の 完成を急ぐ

工費五百圓 石城郡好間江筋合にては同村字町田内の好間川邊が完成しないので出水の際に

炭車に潰さる

生命覺束ない 石城郡内郷村字宮磐城炭礦長屋居住宮城縣生れ運炭夫赤間進(三)は十二日午前七時半頃石炭運搬中轉覆した炭車の下敷きとなり胸部其他に重傷を遊へ生命覺束ない

平町人事

出生 平町 小林要吉氏三女キマ子 八十五丁日 天野幸之助氏二男周祐